

トルコ リンゴは輸出に適した品種に移行

[FreshPlaza 2025年7月1日](#)

「伝統的な品種から輸出に適した品種への顕著な移行」

トルコの青果物業界は、少し前には霜による大きな打撃への対応に追われた。トルコのリンゴ輸出業者グルブダック社の対外貿易部長であるエネス・グルブダック氏は、同社のリンゴ園は比較的順調に対応できたと言う(以下「」は同氏の話)。「今シーズンの始めには、主なリンゴ産地で天候条件が比較的良かった。しかし、我々は大きな課題に直面した。一部の地域での晩春の降霜は、開花の早い品種に影響を与えた。幸いなことに、降霜防止や灌漑などのタイムリーな介入により、甚大な被害は回避することができた。全般的には、トルコのリンゴの生産量は、平年に比べて40%から50%少なくなりそうだ。」

グルブダック氏は、過去数年間で輸出市場により適した品種の栽培に変化があったと語る。「過去10年間で、トルコのリンゴの栽培面積は全体的に増加した。また、スターキングなどの従来品種から、ガラ、レッドチーフ、グラニースミスなどの輸出により適した品種への移行も顕著に見られる。これは、世界市場の需要に合わせて輸出の可能性を向上させるというトルコの戦略を反映している。過去数年間で、弊社はいくつかの主要市場への参入に成功した。我々は、一貫した品質と包装基準により、過去10年間にインドで強固な関係を構築してきた。今後は、東南アジアやアフリカ諸国への展開も目指している。」

パンデミックの期間中、物流の面でいくつかの問題があった。しかし、それらの問題は今ではほぼ解決されたとグルブダック氏は説明する。「最大の課題の1つは物流であった。コロナ禍では特に運賃の上昇とコンテナの不足に大きな影響を受けたが、ありがたいことに、今では物流の問題は解決している。そのほか、一部の国で植物検疫要件が厳しくなった。弊社では、予冷設備に投資し、国際認証への厳格な準拠を維持することで、この問題に対処した。また、物流パートナーと緊密に連携して、タイムリーで安全な配送を確保した。」

「来シーズンは、弊社の果樹園では他所と比較して量と質の両面で安定した収穫を期待している。弊社の目標は、既存の市場での存在感を強化すると同時に、いくつかの新しい市場にも参入することである。トルコの生鮮リンゴの総出荷量が減少したとしても、弊社では輸出用の出荷量を増やすことを目標にしている。また、持続可能性にも力を入れており、水の使用量を削減し、より環境に優しい包装方法を採用する。このことは、弊社の将来の目標にとって必須のことである。」

執筆者: ニック・ピーターズ

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)